

先生方に想う

法務教官という仕事があった
そう言って懐かしむ日が来るのかもしれない
それは非行や犯罪が無くなった日か
それともAIに仕事を盗まれた日か
いずれにしてもその日はやって来る

僕はその日に想う

先生方のことをきっと想う
怒ると怖い先生がいる
隙あらば畑に行く先生がいる
日勤には必ず面接をする先生がいる
お金の話をする先生がいる
車が好きな先生がいる
生物学を学んだ先生がいる
本を読めと言う先生がいる
テレビを見よという先生がいる
母親のように考える先生がいる
色々な先生が少年院にはいる
これほど個性豊かな仕事を僕は他に知らない
色々な先生が一つだけを考えている
僕たちが更生するために考えている
僕が更生する時もいつかやって来る

僕はその時に想う

先生方のことをきっと想う
雑談をする先生がいる
返事が大事という先生がいる
院生活と筋トレを交せる先生がいる
外国の話をする先生がいる
率直に話す先生がいる
声を掛けている先生がいる
いたずら好きな先生がいる
医師になりたかった先生がいる
苦手でも一緒に泳ぐ先生がいる
その個性が僕に笑顔をくれる
けれどAIには個性というものが存在しない
AIに頼るのは合理的と知っている
合理的だけが全てではないと知った
けれどいつしか合理化はやって来る

僕はその後に想う

先生方のことをきっと想う